

あわべに 淡紅だより

2015年 6月号 No. 47

みとめあい わかちあい まち
“あなたと、寛容共生の宝塚に”

宝塚市議会議員

おおしま ときこ
大島淡紅子

■ 議員控室

- Tel (0797) 77-1271
- Fax (0797) 74-1810
- E-mail goiken@tgikai.zaqr.jp

新

■ 事務所 (月～金 10:00～15:00)

- 〒665-0816 宝塚市平井 1-6-14
- Tel&Fax (0797) 89-4090
- HP <http://ayumukai.jp/>
- E-mail o-ayumukai@poem.ocn.ne.jp

みなさまとともに

4期目に突入！ 力いっぱい働く決意

みなさまの温かいご支援のお陰で、無事当選することができました。今後の4年間も精進し頑張ってお参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。(公選法では自筆以外の文書でのお礼ができませんので、ご容赦ください。)

今期も、議会と議会との間に事業を行います。夏と冬には議会報告「おーちゃんの市政リポート」、春と秋にはフィールドワーク「ツカのお宝探検隊」で、まち探検をいたします。

市政だけでなく、これらの企画にもご意見・ご提案をお寄せください。テーマや行き先に関することでも構いません。同封のハガキをご利用いただき、ご意見・ご要望をお願いいたします。



選挙結果

立候補者 全 33 人

当選順位 22(定数 26)

得票数 1,833

選挙直前に武庫川の右岸と安倉地区で、私を含め数人の議員を中傷するビラがポスティングされました。

実際、選挙期間中にビラを持った人が街頭演説を妨害しました。

前回の選挙では事務所前ロータリーでの数回にわたる、中傷宣伝の為に320票減りましたが、今回は中傷にも関わらず200票増えました。



歩む会代表と喜びを分かち合う。



議会構成

<会派結成>

井上きよし議員(無所属)、梶川みさお議員(社民党)と会派を組み、前期1人で名乗れなかった「ともに生きる市民の会」を会派名にしました。代表者は井上議員。3人で、力を合わせて活動していきます。



所属政党や、同じような考え方・意見を持つグループを「会派」と呼びます。

また、議会の運営をつかさどる重要な委員会「議会運営委員会」に、会派から梶川議員を選出しました。

宝塚では3人以上の会派から委員を出すようになっており、今回この要件を満たすことができました。

<産業建設委員会に所属>

私は産業建設常任委員会に所属しました。所管事項は、都市安全部、都市整備部、環境部、産業文化部、消防本部、上下水道局及び農業委員会に関することです。



市議会では…

市議会に提出された議案などは、①まず本会議で提出者から説明を聴きます。②原則として所管する委員会に審査を委ねます。③審査が終了した議案は本会議で出席議員の多数決で最終意思決定されます。

<広報広聴委員長に>

前期所属していましたが会派解散に伴い、無所属議員は委員になれませんでした。やり残したことを成し遂げたいと、このたび会派から送り出してもらい、委員長にも就任しました。

やりたいことの一つに、「一時保育サービスをつけること」があります。子を持つ親の中では当たりまえですが、委員会では阻止されてきました。このたび、「意見交換会」でやっと設置します。申し込み制ですが、子育て中の方にぜひとも参加して欲しい、議会の姿勢を解っていただきたいというメッセージです。

所管事項は、議会報『かけはし』、『エフエム宝塚』の活用、議会ホームページ、インターネット配信、議会報告会や意見交換会、その他議会の広報広聴活動に関することです。

「海光・早苗田句会」

杉山鮎水 選

一月

特選 お降りのまたひとしきり猫を抱く
入選 人が搗かぬ餅搗きの世や白に塵

裁判官の鎧外して忘年会

峯子
鮎水
鮎水

三月

特選 天守閣がくぶちとして梅見かな
入選 梅が香りを撒ける風あり大阪城
梅が咲き喜び分つ友がいて

梅が咲き喜び分つ友がいて

栄子
峯子
恵之輔

「序曲」

四月

特選 やわらかな日射を膝に春惜しむ
入選 躑躅へと開花促す雨雫
吟行に五感をすます春深し

吟行に五感をすます春深し

栄子
光代
恵之輔

杉山鮎水 選

句会「海光」「早苗田」を統合し、新たに「序曲」となりました。ご一緒に俳句を楽しみませんか。初心者、大歓迎！



4月23日「大島淡紅子 囲む会」。亡き土井たか子さんのDVD上映後、12年間の活動報告と今後の取り組みを語りました。



選挙の記録



市議会議員選挙は
2015年4月19日に告示され、
7日間、訴え続けました。



市民のみなさんだけでなく、議員や市民活動家も応援に。



選挙戦ではいつでもできるだけ車から降りて政策を訴えます。子どもも含めた市民のみなさんとの対話を大切にしたいから。タスキ代わりのゼッケン。エプロンのようですが友人が心を込めて縫ってくれました。白手袋の代わり、指人形のクマさんは子どもたちが小さい時に遊んだもの…子どもたちや若い親御さんに政治を身近に感じて欲しい、私のこだわりです。



と淡紅のき声

4月、安倍総理は、日本の総理大臣として初めて米国連邦議会の上下両院合同会議で演説をした。「日本は、世界の平和と安定のため、これまで以上に責任を果たしていく。その決意のために必要な法案の成立を、この夏までに必ず実現する。」日本の国会より早く、そう言い放ったのをTVで見た時、「議会軽視」と怒りがこみあげた。国民の代表とはいえ、国会議員感覚が抜けていない。行政の長として、地方自治体では考えられない行動であり、議会制民主主義への「挑戦」である／積極的平和主義—先の大戦の名目はアジアの平和を守ることであった。為政者が声高に「平和」を強調し始めたことに、強い危機を覚える／年齢80を超えた著名人の懸命の行動が増えてきたように思う。今までにない危機感を感じておられるのだ／さて、私たち。声を止めないことしかない。SNS・投書・署名・集会参加・ピースウォーク・そして集会の実行委員になること…市民の声の大きさを為政者はやはり無視できないし、今は多くの手段で意見表明できる。森村誠一さんなど、作家の名も新聞の投書欄でたびたび見る。自主規制しているとは言え、まだまだメディアは影響力が大きい。活用していこう！